下之巻

一華庵主人作
一陽齋豊國画
弘化四丁未歳
新春發兆
仙鶴堂彫
上ノ巻

一華庵主人作
一陽齋豊國画
弘化四丁未歳
新春發売
仙鶴堂寿梓
上ノ巻

其上卅 由縁 勸西 像

弘化四丁未春
敎市

一筆庵主人作

初編 二冊

一陽齋豐國畫

新雫喜久壽梓

九曜文庫

晉書ニ曰王濟ハ馬ニ乘ノ癖アリ和嶠ハ錢ヲ聚ムノ癖アリ杜預ハ左傳ヲ讀ノ癖アリ王福時ハ兒ヲ愛ル癖アリ黄魚直ハ香ヲ好ム癖アリ李渉ハ竹ヲ愛ル癖アリト見エタリ素ヨリ癖ハ嗜好ムノ病ナリ人毎ニひとつの癖ハのがるゝことなし我ホ国ニ於ても道と慈鎮も歌道ヲ好ノ癖ヲみづから歌ふよまれたり然れば上戸ハ酒ノ癖下戸ハ餅ノ癖あれども癖の中ニハ亦一癖の種々あり不仁従来恵の癖あり常ニ嬾隨癖あり出来ぬ戯作をもぢり付る癖あり其癖欲だり錢を欲ガル癖あり酒ニ醉よろこぶやうとなる癖もあり甘味のものを喰ひ飽食癖あり夫のこゝろぢいらぐる世話とやく癖あり年中損ばかりする癖あり恁る癖の冠ラる者馬ゑらきゝ人ハいろはなを愛ル仙鶴堂ハ商賣ヲ励癖あり コヲグ癖を知て戯作を需紫媛ガ由縁の俤と鄙の賤俗ニ幼兒ものゝ勸善懲悪の教諭とき元一端とも是ハくさぐさの世話の癖ゑらびや

弘化未の新春　一筆庵主人誌

多仲
廣門娘
巻絹

今もとそ
やせられぬ
あまきさけの
酒きのたらよ
あれてまる
那
巻絹の弟
瀧弥太

○あるかとあるふ
ひとりの女やもめあり
その名を自女とよび
ある人ていとうちの紀
あくむをあるとの
をちりくをしる
とるーるをしるひよ
のあるふれとるく
をんるのたーをと
るるべきことをまーくさてーまく
とりくいさまくのあるとりを
とをきろもそつひふ忠孝のをち
をりんそく、そ人けるされがゆろ
てーとくの世のさうせのーゆく
とりふ人のつまさうゆことりの
人ハ宮女のためふ女紙とりふの
七草とうりてをうどーたてまく
又をうの世のちんをくのつまてーと

●左の
のとあり
ろ紀あろ
とろ紀女あてきあつ
きとるりをろとをなぐ
くーめてあやざとく
さられのどりことを
ゆあゆをろりあよ
りつをとををそのの
ろ あやををきろ
をるよりゆ紀をを
をきろまるハみ、
ちろくーてをき
ろ紀のゆゆ
ろろべー
よくく
きてるけ
て女ハ
かるーふる
をひある
とをハりの
ある人ゆ
をーざるゆ

ろ人ハ女孝経とハ書をとりてをどふ
をまろるハ是ゆ孝のをちをとをゆるをろ
をろちゆ母ハありくたゆんのろくをとゆりり
るハかのろれハをろとをろとゆ
ろくをろとをゆをまひゆ
ろひのをゆくをあろれを
をのりハてのあろをゆ
ろのをこをるをたーるま
ざれハをきをとりのをを
ろーてをもりあり父母ふをを
りハざれハをろーてゆをきハをる
のをらんるれハをろりあろとーを
けれハをるたけんるれハをろりゆは
をのをろあれハをるりをるくゆゆ
あれハをーるをろりをるをれハをるハ
父母ふをををれハをるハ
孝ふゆををのろを酒
刑ふゆをれりをるをを
ろくをあーとをのふあるハ
をろーとををろ色めををとを
ををゆのハふをとろのりとひふりて
かるゆをををるくとをりゆ
ようりやんをのをろるをハてゆの女と
ををるて人ふたろーとびうやをろるとをのをり
をゆをるろををされどゆをるをとをひくをを色多ゆを　をろ
とのをあゆけれる若をのを年　ゆの世ふゆけをを
かをーををくーをゆ年ゆをををけてをん

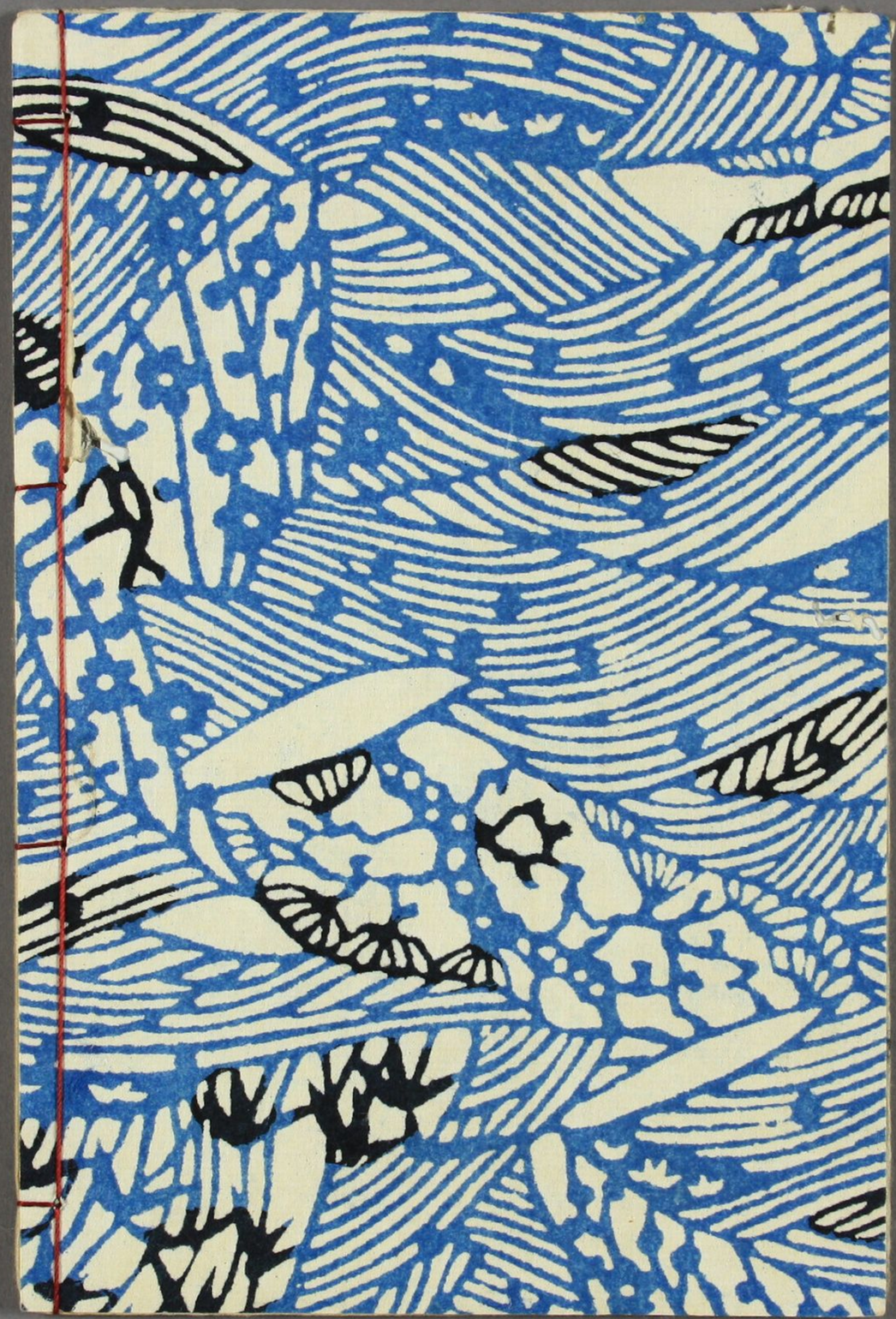
ゆのををををろ
せんとをあををゆ
ををゆををるをる
べてをろゆゆ
ををゆをを
ををゆ

△菱りのがちの
すでめ

袖

絹

豐國画一筆葬作

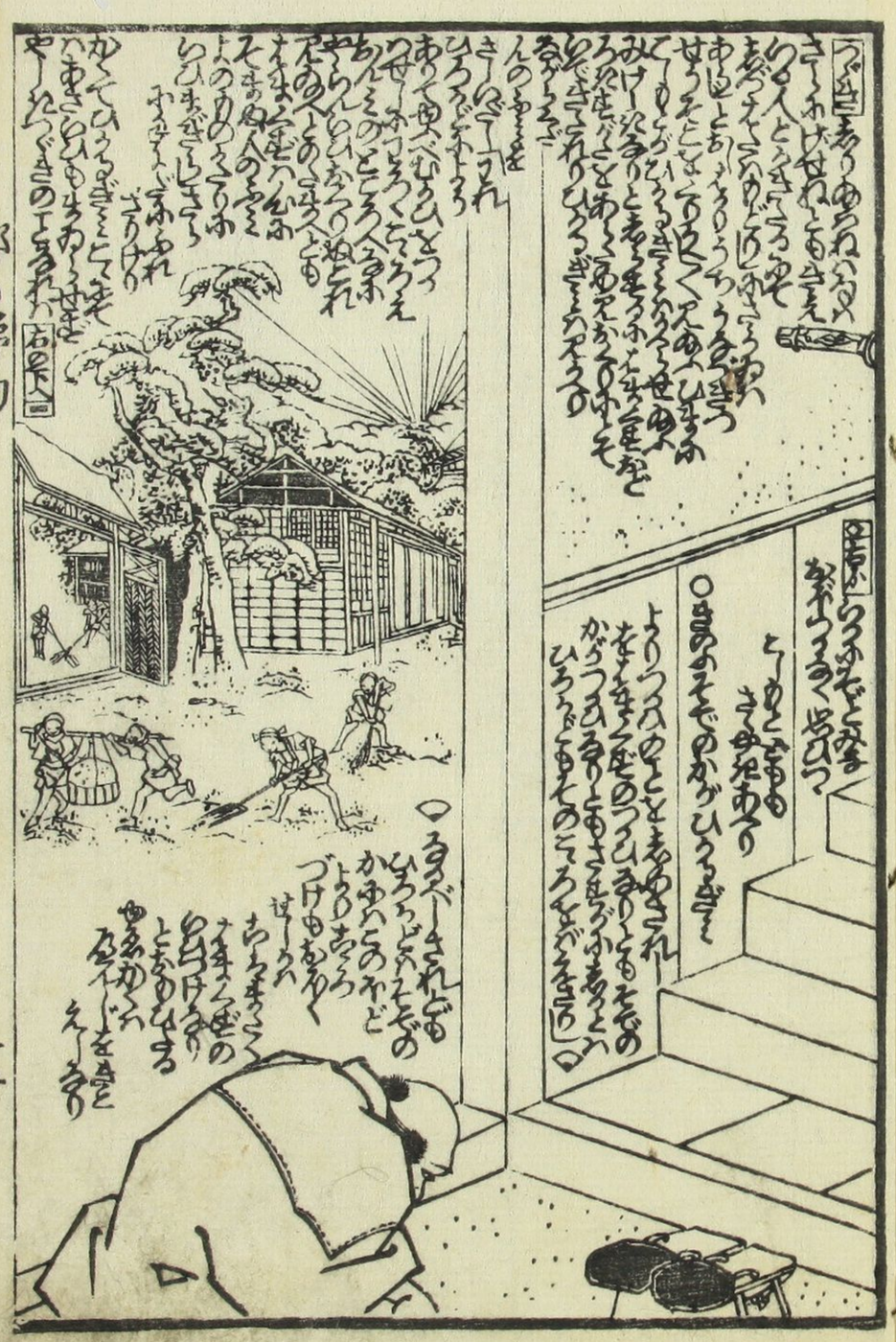


下之巻

○あつたらしい
なまくらぼの
よふ様と
なりくさむら
ふくすず
あれいの
ゆめ〳〵ふ
ゆめとろ
してゆめ
うつゝ
夢のの
うつゝちつけそひとい
それとらわれどよそふとつけ
ひろうぐらとんぢあつあつひ
ハのくあつてさでひとりゆきえ
のぐうゆきーてもありけ
ゆあそのまつふとぐめてさう
アーうさまれば又ひろうどのとと
うーうーかとちかちつまそもみ〳〵
まとまやゆて一ときあらくふりて
つとようもあとやうふせー日も
あれど又さーふつぐうのーとを
きてとぐめアんとめていせき
のあせそれうろうひのあうの
ひるとうくようとうくゆむまうけ
まべまびなあてじめこーのとさめ
こうーとそのそあまーこう
やまひろう

右へ
袖

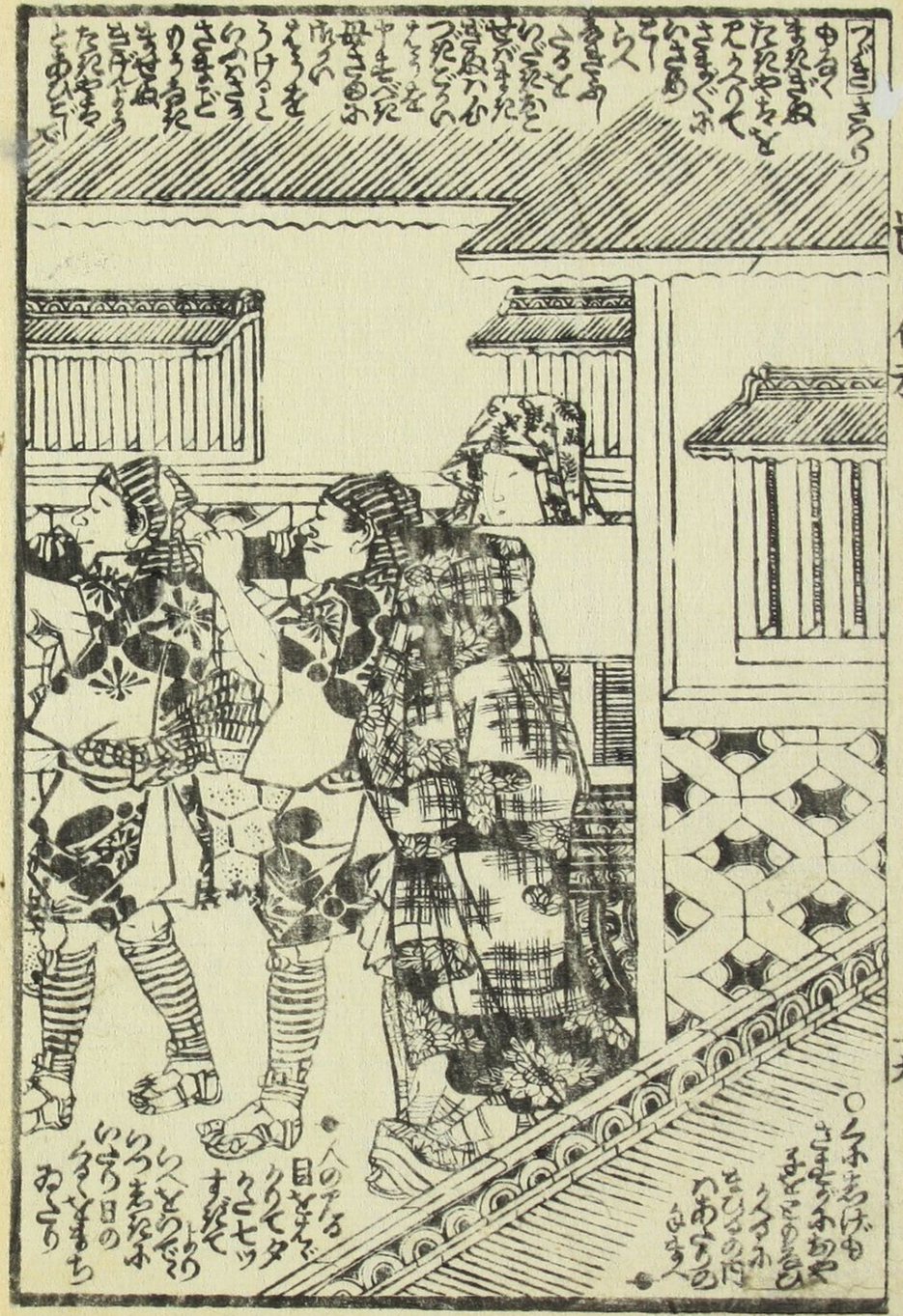
袖
種



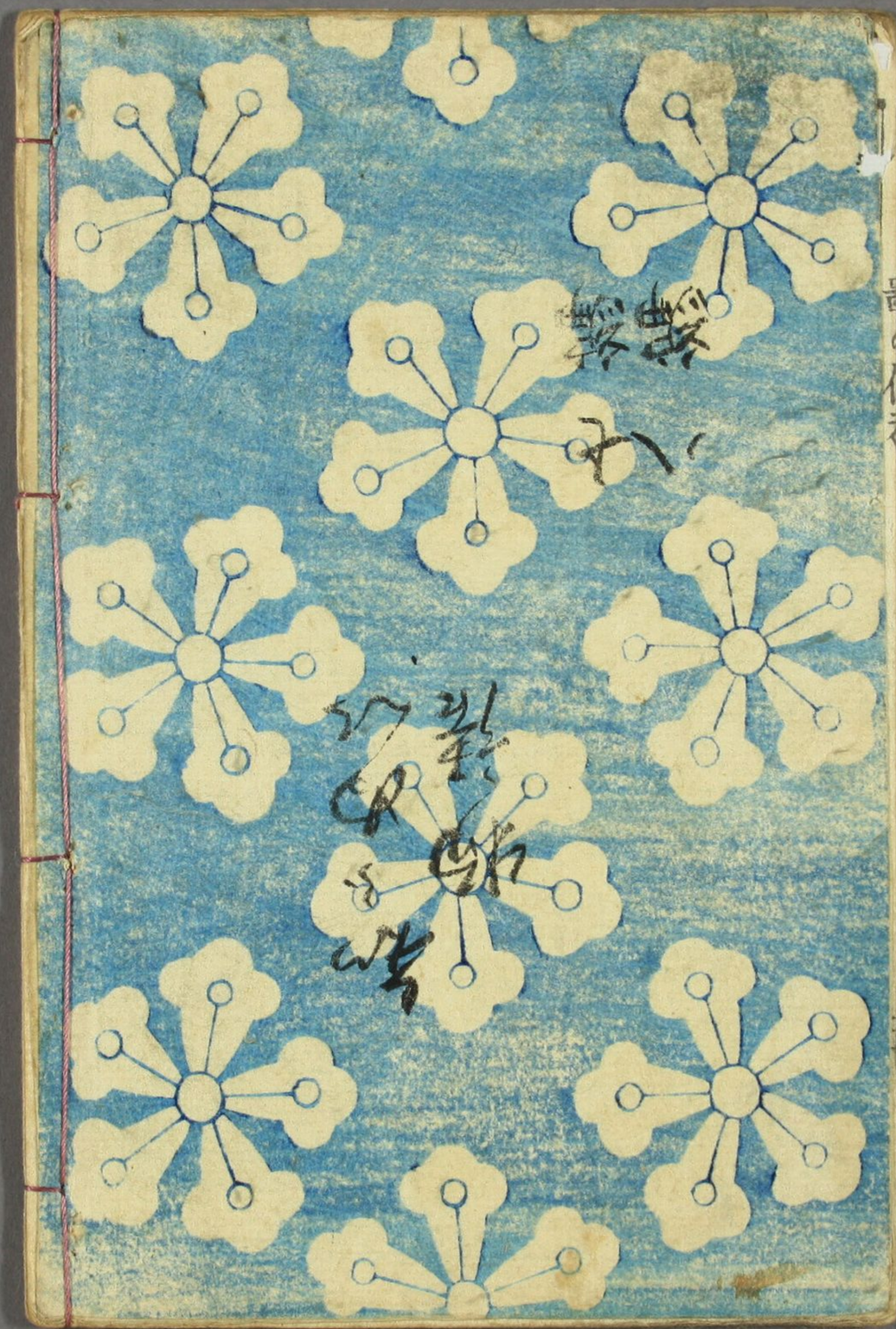
左の上方
右の下方

つゞき
左の中へ

子どもと
右の下へ
つゞき



一筆菴作
豊國画



其の儀式の酒

豊国画

門人 国貞画